



川崎市議会議員

# 本間 賢次郎 ケンジロウ

市政レポート No. 18 (令和元年6月号)

事務所 〒210-0834 川崎市川崎区大島 3-14-17  
TEL044-742-8072 FAX044-211-1081

5月28日に多摩区で発生しました死傷事件について、被害に遭われました方々にはあまりにも突然のことでお慰めの言葉もございません。凄惨な事件に憤怒の念が絶えません。犠牲になられた方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族の皆様にお悔やみ申し上げます。お怪我をされた方々の一日も早いご快復をお祈りし、行政との連携の下、被害にあわれた方々、ご関係の皆様への精神的ケア等の支援に取り組んで参ります。このような悲惨な事件が二度と起きることがないように、子どもたちが安心して学校に通うことのできる環境、市民生活の安全の確保に向けた取り組みを進めて参ります。

## 文教委員会副委員長に就任！



5月20・21日に行われた臨時議会において、所属する委員会をはじめ、役職など新たな体制が決定致しました。新議長にはわが会派から山崎直史（麻生区選出・5期）が選ばれました。

私、本間賢次郎は昨年に引き続き、教育委員会、こども未来局、市民文化局を所管する文教委員会に所属し、今年度は副委員長を拝命致しました。

教育・子育て支援策は子育て世代が増加する本市において重要課題であり、多くの関心が市民皆様より寄せられています。また、来年に迫った東京オリンピック・パラリンピックを見据え、開催地の隣接都市として川崎の将来へレガシーを残す取り組みである「かわさきパラムーブメント」の推進や多様性を尊重した街づくり、都市運営を目指す取り組みは今年度の文教委員会で大変活発な議論になると想定されています。他にも「これからの

コミュニティ施策の基本的考え方」は多岐に渡る地域活動などに関わるため丁寧な調査・審議を要すると考えています。また、人口が152万6千人を突破して神戸市の人口を抜き、政令指定都市第6位となり、大都市としてふさわしい文化の醸成に向けた取り組みも必要です。こうした重大なテーマが相次ぐ文教委員会において副委員長という重責を担い、身の引き締まる思いが致します。引き続き、努力を積み重ね、市民皆様の生活に身近な課題の一つひとつ向き合い、市民生活の一層の向上へ取り組んで参ります。

また、大都市税財制度調査特別委員会にも所属し、本市の財政に大きな影響を与えている制度の現状について、国への要望活動等におきましても危機感を持って臨んで参ります。

### 支所を含めた川崎区全体の機能・体制の検討について

去る5月31日に開会した文教委員会にて、市民文化局より「支所を含めた川崎区全体の機能・体制の検討における考え方」についての報告、質疑応答が行われました。地元・川崎区には市内で唯一、支所が設置されていますが、大師支所、田島支所ともに築44年が経過し、全体的に劣化が進行し、大規模修繕が必要となるまで部位によっては9～10年ほどの既存建物調査の結果が出ました。また、大師分室については築53年が経過し、大規模修繕が必要となる年数と目標耐用年数の築60年が非常に近接しているため、大規模修繕によるコスト削減効果が認められないとのことです。この結果を踏まえ、長寿命化の後の建て替え、早期の建て替え（複数の建て替え規模を想定）の比較をし、建物整備費や効果の検証を行いました。区役所と支所の取り扱う業務の違いから複雑でわかりにくい窓口体制などを課題として認識しており、今後、課題解決に向けた機能・体制の再編・強化をすることとしており、機能再編に合わせて必要な規模・諸室の建物を新たに整備することで、空間の有効活用や維持管理の効率化が期待できるとしています。より便利で親身な行政サービスを提供できるよう、区民皆様からのお声を基に、行政に対して意見・要望を行って参ります。